

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第55回学術フォーラム *Forum for Interface Oral Health Science*

口腔乾燥を訴える患者への対処

中川 洋一 先生

鶴見大学・歯学部・講師
鶴見大学附属病院口腔機能診療科

平成24年3月2日 (金) 17:15～18:15
A3講義室 (基礎棟3階)

抄録: 口腔乾燥症(ドライマウス)は、日本口腔粘膜学会の用語・分類検討委員会の分類案では、(1)唾液腺自体の障害によるもの、(2)神経性あるいは薬物性のもの、(3)全身性あるいは代謝性のものに分類されている。このほかに、心因性口腔乾燥症がある。ドライマウスの多くは原因が複合的で、原因の特定が困難なことも少なくない。また、体系的に確立された治療法は存在せず、多くの症例で原因療法が適用できず、対症療法が中心となる。このような現状において、抑うつやストレスが症状発現に少なからず関与することが明らかになってきた。

講演では以下のような内容を含めてドライマウス外来の現状をお話し、諸先生のご教示を仰ぎたい。

- i) コリン作動薬セビメリン塩酸塩の有効性～有効な例・無効な例～
- ii) 薬剤の副作用によるドライマウスと抑うつによるドライマウス
- iii) ドライマウスへの抗うつ薬の効果～舌痛症における有効性との比較～
- iv) 夜間口腔乾燥症への対処

連絡先: 第55回モデレーター 笹野 高嗣 (口腔診断学分野)